

第2期中期目標期間 [2010(平成22)年-2015(平成27)年]

法人化の長所を生かした改革の本格化 大学のミッションに応じた 機能強化の推進

教育

第2期では、社会における大学や学部の役割を明確にし、その実現が期待される段階となりました。人材育成という視点での高等教育の改革が求められ、本学においても、地域に根ざす大学としての機能や連携の強化と強みの重点化、地域との協働や他大学と連携した学生の学びの場の創出に取り組んできました。

図書館の書庫増設とリニューアルが行われ、学生の主体的な学びの場であるアカデミック・commonsを館内に設置しました。

他大学との連携では、医学教育開発研究センターが全国医学教育利用拠点として認定、地域科学部が岐阜経済大学および岐阜市立女子短期大学と協定を締結、工学部が韓国忠南大学校と学部間協定を締結、岐阜大学と鳥取大学の共同獣医学科が発足するなど、他大学との連携が進められました。地域との協働では、岐阜駅前にサテライトキャンパスを設置し、教育研究情報・サービスの提供機能や交流機能を強化しました。



2012(平成24)年10月9日
岐阜大学サテライトキャンパス開所



2013(平成25)年4月1日
岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科設置



2015(平成27)年6月1日
アカデミック・commonsオープン





2014 (平成26) 年4月1日
工学部附属インフラマネジメント
技術研究センター開所



2014 (平成26) 年8月29日
総合研究棟Ⅱの設置

研究



2014 (平成26) 年9月5日
岐阜地域の製造業者、金融機関等の関係者に
研究現場を見てもらうラボ・ツアーを開催

第1期に引き続き地域社会への貢献可能な研究シーズの創出が促進され、更に、国際的拠点の形成を目指した研究を推進しました。地域の関係機関への研究シーズの紹介などの情報発信を継続するとともに、海外の大学との学術交流協定の締結が促進されました。また、大型の競争的研究資金の導入が活発化し、プロジェクト型の研究施設の新設や研究組織の発展的再編が行われ、その一方で、次世代の研究人材の育成も重要視して、学内的な支援制度・体制を整備しました。



2015 (平成27) 年3月10日
タイ教育省基礎教育委員会(タイ)と学術交流協定締結



2015 (平成27) 年12月
ダッカ大学(バングラデシュ)にラボステーション(共同実験室)を開設



2011 (平成23) 年2月
岐阜県ドクターヘリ運航開始



2012 (平成24) 年10月25日
包括連携協定等締結
自治体と岐阜大学との連絡協議会開催



2013 (平成25) 年12月1日
地域協学センター設置

社会貢献

第2期中期目標では、「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する」ことを基本として、「地域に根ざした国立大学として、多角的な研究能力を活用して、自治体等との組織的な連携活動を推進し、その継続を通して地域の諸課題の解決や地域の再生・発展に貢献する」ために、産業界・自治体との連携に引き続き取り組む一方で、ドクターヘリの運航開始や教育委員会や他大学との連携が開始されました。また、平成25年度の文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択されたことを受けて、2013(平成25)年12月には事業の実施主体として地域協学センターを設立しました。



2015 (平成27) 年9月
平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択

国際



2011(平成23)年3月28日

応用生物科学研究科が広西大学(中国)5学院とダブルディグリープログラム(修士)に関する覚書を締結

学術交流はさらに活発になり、外国人教員や研究者が盛んに本学を訪れるようになりました。2013(平成25)年に「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」を制定し、本学が目指す国際化を「グローバル化(=地域に根ざした国際化と成果の地域還元)」と明確に位置付けて基盤整備を図りました。2015(平成27)年には、グローバル化の司令塔としてグローバル推進本部を設置しました。この時期には、教育連携コンソーシアムなど、複数の協定大学を結ぶネットワーク形成が進みました。また、協定大学との複数学位プログラムなど、国際的な協働による特徴ある育成プログラムをスタートさせました。学生の海外への挑戦も活発になりました。学術交流協定は、大学間協定46大学1機関、部局間協定46機関(平成28年2月1日現在)と、部局間レベルの協定が大幅に増加しました。



2014(平成26)年10月30日~11月3日

応用生物科学部生が国際合成生物学大会iGEMで銀賞を受賞



2015(平成27)年4月1日

グローバル推進本部設置



医療



2012(平成24)年4月
新生児集中治療部開設式



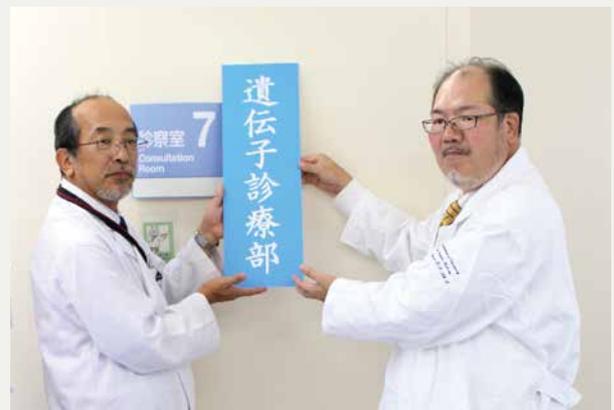
2012(平成24)年10月～
ICカードを用いた新しい病診連携
システムを運用開始



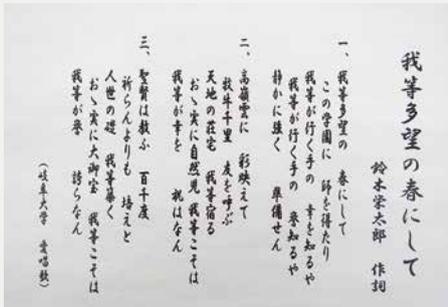
岐阜県における医療分野の最後の砦としての役割を果たすべく、さらなる体制の整備を行いました。診療面では、平成22年度には、県の救急医療の充実のためドクターヘリ基地病院として本格稼働を始め、県内医療機関と連携した5大がんに係る地域連携パスの運用、2013(平成25)年度には、最先端のがん治療に対応できる内視鏡医療機器や化学療法施設を拡充した北診療棟の開設など体制を整備しました。教育・研究面では、2010(平成22)年度に、医師の県内定着を図り医師不足を解消するため、県内の主な臨床研修病院8施設と「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」の協定を締結し、魅力的な研修プログラムの提供や臨床研修指導医を対象とした講習会を開催しているほか、医薬品等の臨床研究や医療情報を駆使した臨床研究を実施するため、2014(平成26)年度に「先端医療・臨床研究推進センター」を設置し、組織的に臨床研究を推進する体制を整備しました。



2013(平成25)年6月
医学部附属病院北診療棟開設



2014(平成26)年10月
遺伝子診療部開設



2012(平成24)年4月7日
岐阜大学愛唱歌初披露



2012(平成24)年8月1日
研究推進・社会連携機構設置



2013(平成25)年4月6日
岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所



2013(平成25)年12月1日
教育推進・学生支援機構設置

その他

本学の長所を生かし、さらに発展させるため、機能強化を推進する組織づくりが進展しました。教育・研究・社会貢献活動を全学的に統括する研究推進・社会連携機構(2012(平成24)年8月)、各部局の教育・学習を全学的に統括する教育推進・学生支援機構(2013(平成25)年12月)の設置です。新たな教育研究の拠点としての岐阜大学サテライトキャンパス開所(2012(平成24)年10月)、岐阜大学旧早野邸セミナーハウス開所(2013(平成25)年4月)、図書館1階にアカデミック・コモンズ整備(2015(平成27)年6月)など、キャンパスの教育環境の整備もさらに進展しました。また、社会との対話を促進するため、2014(平成26)年6月、森脇学長による定例学長記者会見を開始しました。



2014(平成26)年6月18日
定例学長記者会見(第1回)開始